

認知症になっても 住み慣れた地域で 自分らしく生きる

令和6年1月に認知症基本法が施行され「認知症になったら何も分からなくなる・できなくなるのではなく、認知症になってもできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」が示されています。



つつじ荘の職員からのメッセージ

カラオケや体操など、どの活動にも全力で取り組まれています。いつも明るく前向きなので、周りの方を元気にするだけでなく、頼りにもされています。つつじ荘へ来ることで、心身の健康につながっているのだと思います。



認知症地域支援推進員(高齢者なんでも相談室)からのメッセージ

物忘れなどの悩みを抱えながらも、自分でできることは続けることを大切にされています。一方で、できていたことが難しくなったときには一人で抱え込まず、地域の人とつながりながら生活されています。自分の力を信じながら暮らすことの大切さを、佐藤さんから教えていただいています。

認知症地域支援推進員とは？

認知症の方の状態に応じて、本人や家族からの相談を受けたり、医療・介護サービスの関係機関と連携を図るなど、認知症への理解・地域での支え合いを広める取り組みを行っています。

私らしく毎日を過ごしています

インタビュー

プロフィール

90代女性。病気がちな夫を支えながら、ほぼ独学で習得した洋裁の仕事などで家計を支えてきた。数年前から物忘れを自覚するようになり、現在は長男と二人暮らしで、週に数回つつじ荘を利用している。困ったことがあれば、高齢者なんでも相談室の認知症地域支援推進員などに相談しながら生活している。



佐藤さん(仮名)

楽しみについて

さまざまな洋服を作ってきましたが、最近では、自分が作った服や小物、買った服をコーディネートして楽しむのが好きです。周りの皆さんから「今日もすてきね!」と声を掛けてもらおうと、とてもうれしいです。



▲手作りのベスト



▲襟回りを作って縫い合わせた既製服のアレンジ

生活の工夫について

急いで片付けると物を置いた場所が分からなくなるため「ここに〇〇を置きます」と口に出すなど、確認しながらゆっくり行動するように心掛けています。日付や曜日が分からないときには毎日書いている日記を見返したり、漢字が思い出せないときには辞書を引いたりして確認するようにしています。



▲辞書と日記

市では認知症の方や家族、サポートしたい方が利用できる事業を実施しています。詳細はお問い合わせください。

認知症の人の家族のつどい「あびこ」

日時 10月14日(水)13時30分～14時30分
場所 けやきプラザ **内容** 介護方法や日頃の悩みなどの情報交換
対象 認知症の方を介護している方、介護経験者
費用 無料(申込不要)

◎「本人ミーティング・あびこ」も同時開催

認知症の方や物忘れが気になる方が集まり、日頃感じていること・考えていることを自由に語り合う場です。仲間と出会い、つながりませんか。

「ひなぎくの会」をチームオレンジあびこ第2号に認定!

チームオレンジとは、認知症の方や家族と、認知症サポーター(認知症の方や家族を見守り、サポートする応援者)をつなぐ地域での支え合いの仕組みです。高齢者の閉じこもり予防・生きがいのある自立した生活の支援を目的として、交流の場を提供している「ひなぎくの会」がチームオレンジあびこ第2号に認定されました。



(例)



◀認知症高齢者等見守りシール
行方不明になった方を発見したときに、シールの二次元コードを読み取ると、発見者が家族などに通知メールを送れます。



◀認知症ガイドブック
「いつ」「どこで」「どのような」医療・介護サービスが受けられるのか、認知症の進行に合わせて掲載しています。



◀認知症サポーターカード
認知症サポーター養成講座を修了した方に渡しています。